令和７年度（2025年度）水環境・生物多様性保全計画進行管理表

取組みの柱	施策の方向性	指標名	2021年度	2032年度(※1)	前年度	2025年度			
			基準値	目標値	実績値	実績値	指標の評価		主な取組み
							評価	分析	
１水環境の保全活用	1-1 水環境・水循環の理解の促進	(1)水環境や水循環について理解している市民の割合	水環境：40.8% 水循環：42.7% (※2)	100%	水環境：41.3% 水循環：50.1%	水環境：42.2% 水循環：45.0%	遅れ	基準年度より増加したものの前年度より水環境は0.9ポイント増加、水循環は5.1ポイント減少した。目標達成に向けてさらなる啓発活動の実施が必要である。	・大草谷津田いきものの里自然観察会 ・ふれあい自然観察会 ・水辺いきもの探索隊
	1-2 豊かな水辺（河川、海岸、湧水地など）の保全・創出	(2)多自然護岸整備河川等の延長(※5)	13,644m (2019年度)	17,449m (2029年度)	14,011m	15,114m	遅れ	二級河川支川都川においてＬ=1,103mの河道築造工事を行った。順調に整備が進んでいる状況。引き続き、河道の掘削を行う。	・二級河川支川都川において、大規模な地盤改良工事の完了に伴い、令和５年度より流域内の浸水軽減を図るために河道築造工事を実施
	1-3 きれいな水（水質）の保全	(3)水質環境目標値（生活環境項目）達成率（※5）	61.1% (※4)	100%	70.0%	76.7%	遅れ	基準年度より改善したものの目標値である100%を達成できなかった。主な要因は海域（CODなど）となっている。海域の水質は広域的な課題であることから、周辺自治体等と連携し、汚濁負荷の削減のための施策を推進していく。	・公共用水域モニタリング調査による水質監視 ・水質汚濁防止法・環境保全協定等に基づく事業者への指導 ・広域連携により東京湾岸の自治体で協働して啓発活動・国への要請活動等を実施
	1-4 水資源の持続可能な利用	(4)単年度沈下量2cm未満の地点数の割合（※5）	100%	100%	100%	100%	順調	2012年度以降、年間2cm以上の沈下は観測されておらず目標値を達成した。 千葉市環境保全条例等による地盤沈下対策が適切に実行されている。	・千葉市環境保全条例等に基づく揚水規制 ・観測井の地下水位等の継続観測 ・水準点の高さの測量
	1-5 地域の水辺とふれあう機会の創出	(5)自然観察会等の参加者数・開催数(※3・5)	92人 5回	2,450人 140回	245人 14回 (計画期間累計) 530人 27回	284人 12回 (計画期間累計) 739人 40回	順調	参加者は基準年度及び前年度より増加した。目標達成に向けても順調に推移している。開催数は雨天中止などにより回数が前年度より減少はしているが、着実に積み重ねている。引き続き取組みを進めていく。	・大草谷津田いきものの里自然観察会（11回予定中3回は雨天中止） ・ふれあい自然観察会（2回予定中1回は雨天中止） ・水辺いきもの探索隊 ・稲作体験学習 ・小学生向け現場体験 ・出張授業
２生物多様性の保全再生	2-1 生物多様性・生態系の理解の促進	(6)生物多様性について理解している市民の割合（※5）	55.0% (※2)	100%	55.9%	53.2%	遅れ	基準年度よりは減少し、前年度より2.7ポイント減少した。目標値達成に向けて市民の生物多様性への理解度を高めるため、普及啓発に係る施策のさらなる実施が必要と考えられる。	・大草谷津田いきものの里自然観察会 ・ふれあい自然観察会 ・水辺いきもの探索隊 ・市民参加型生き物調査（バイオーム）
	2-2 豊かな緑（水源林、谷津田など）の保全・創出	(7)谷津田の保全協定締結面積	61.89ha	80.17ha	64.88ha	65.46ha	遅れ	前年度より0.58ha増加した。さらなる保全区域の拡大のため地権者との継続的な交渉を進めていく。	・地権者への理解促進、協力依頼
	2-3 貴重な動植物の保護及び外来生物対策	(8)貴重な生物（ヘイケボタル、ニホンアカガエル）の生息数（※5）	1,632匹 2,089個	増加	1,256匹 2,828個	1,140匹 3,364個	遅れ	基準年度よりヘイケボタルは約30%減少、ニホンアカガエルは約60%増加がみられた。生息量は天候等の影響により年度によって増減があるため、長期にわたりモニタリングを継続していくとともに、生息の場の保全・維持を継続していくことが重要と考える。	・モニタリング調査を担う市民団体等の発掘、連携 ・貴重な生き物が生息している地点の把握
		(9)特定外来生物（哺乳類）の防除数(※3・5)	176頭	2,350頭	499頭 (計画期間累計) 897頭	621頭 (計画期間累計) 1,518頭	順調	基準年度から捕獲頭数が増加しており、現時点で目標値の60%を超えることとなった。捕獲数の増加傾向が継続していることから生息数の増加が推察され、在来生物の生育・生息環境保護のため、引き続き対応を強化していくことが必要と考える。	・市民等への捕獲用ワナの無料貸出 ・集中捕獲事業の実施
	2-4 生物多様性がもたらす資源の持続可能な利用	(10)家庭系食品ロス量	3,824ｔ (10.7g/人・日)	2,900ｔ (8.3g/人・日)	4,021t	4,114t	遅れ	基準年度及び前年度から増加した。目標達成に向けて、さらなる啓発活動の実施が必要である。	・食べきりキャンペーン ・小中学校等における食品ロス削減の啓発 ・中学校家庭科教材「エコレシピ動画」の活用 ・食べきり協力店認定制度
	2-5 地域の自然とふれあう機会の創出	(11)（再掲）自然観察会等の参加者数・開催数(※3・5)	92人 5回	2,450人 140回	245人 14回 (計画期間累計) 530人 27回	284人 12回 (計画期間累計) 739人 40回	順調	（再掲）	（再掲）
３計画の推進体制の整備	3-1 人材の確保・育成	(12)ボランティア育成講座の受講者数・開催数(※3)	17人 1回	1,200人 60回	79人 6回 (計画期間累計) 151人 12回	38人 6回 (計画期間累計) 189人 18回	遅れ	基準年度より増加したが、前年度からは約50%減少した。前年度に比べ参加申し込みが少なく、人数が減少した。引き続き目標達成に向けて、継続的な周知活動の実施が必要と考えられる。	・自然体験教室の開催
	3-2 ボランティア等の活動支援	(13)地域環境保全自主活動事業補助金の交付団体数(※3)	1団体	30団体	0団体 (計画期間累計) 0団体	0団体 (計画期間累計) 0団体	遅れ	2025年度末で制度を廃止した。活用が進まなかった要因としては補助要件に千葉市民活動センターへの登録があることや、補助率２分の１の補助であり団体側の持ち出しがあること、より申請しやすい補助制度が整備されてきたこと等が考えられる。指標については、見直しを行う予定。	・市政だよりや市民活動支援センターを通じた制度活用の広報
	3-3 市と市民等によるモニタリング体制の整備	(14)貴重な生物（ヘイケボタル、ニホンアカガエル等）のモニタリング地点数	3地点	14地点	4地点	4地点	遅れ	前年度と同じく、モニタリング実施ポイントとして、従来の4地点で調査を実施した。 目標達成に向けてモニタリング地点確保及び連携団体の発掘を進めていく必要があります。	・モニタリング調査を担う市民団体等の発掘、連携 ・貴重な生き物が生息している地点の把握

※1　一部目標年度が異なるものがある。　※2　2023年4月に実施　※3　計画期間中の累計値　※4　計画に記載の数値（67%）が誤っていたため正しい数値に修正　※5　千葉市環境基本計画と同一指標

評価について

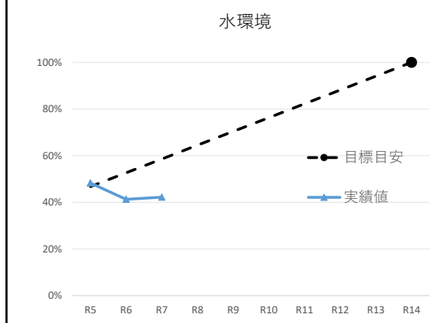
・指標は、当該年度の進捗状況について、目標目安の8割以上を「順調」、8割未満を「遅れ」の2段階で評価する。1つの指標に複数要素がある指標（指標(1)など）は最も達成状況の低い要素で評価する。

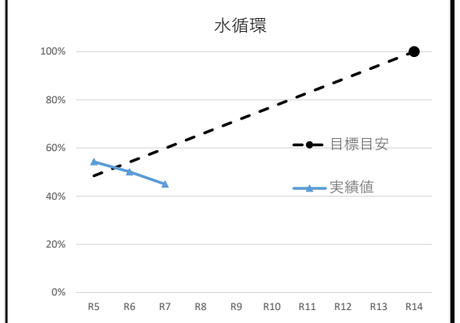
・目標目安とは、計画最終年度の目標値に対する各年度の進捗状況を把握するための目安である。各年度において達成していることが望ましい目安として設定し、計画期間に応じた目標値の按分等により、指標の性質を踏まえて算出している。【詳細は進捗グラフ参照】

令和７年度（2025年度）水環境・生物多様性保全計画進行管理表　進捗グラフ

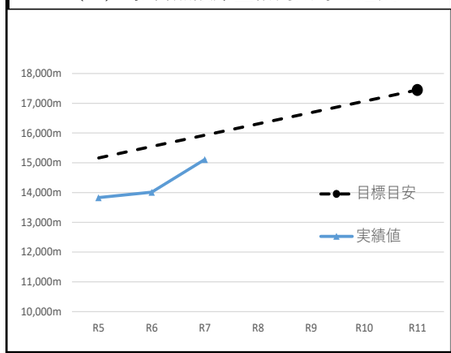
取組の柱１：水環境の保全活用

（１）水環境や水循環について理解している市民の割合

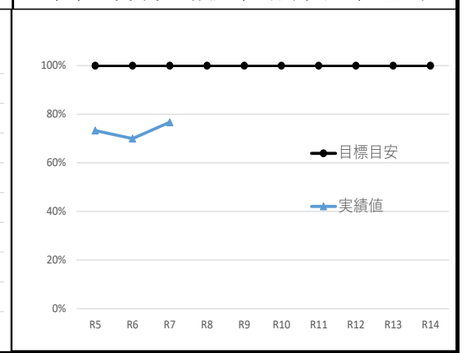




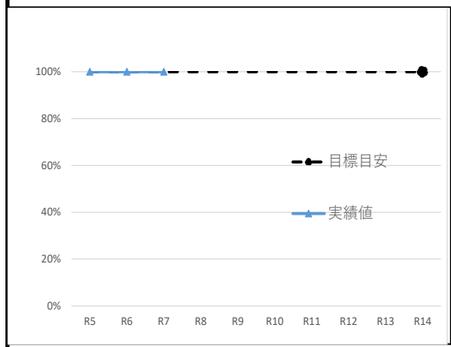
（２） 多自然護岸整備河川等の延長



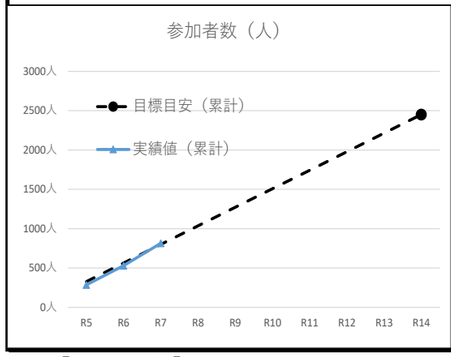
（３）水質環境目標値（生活環境項目）達成率

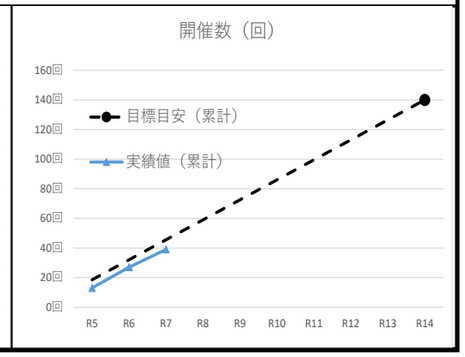


（４）単年度沈下量2㎝未満の地点数の割合



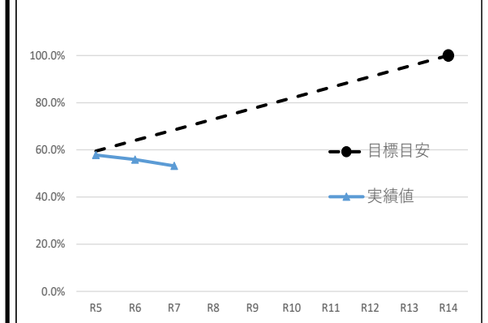
（５）自然観察会などの参加者数・開催数



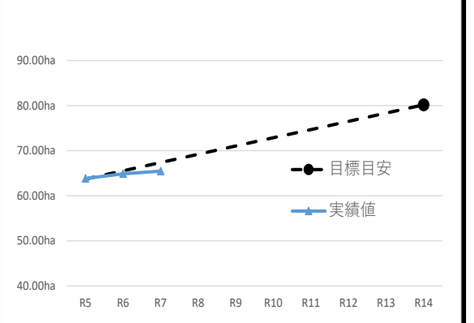


取組の柱２：生物多様性の保全再生

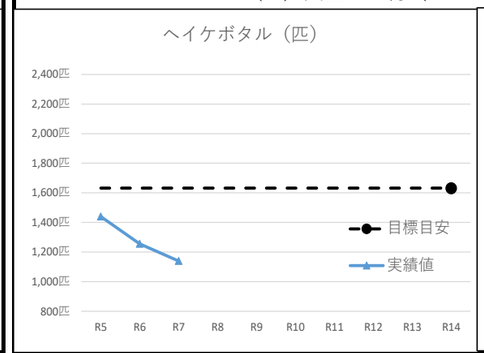
（６） 生物多様性について理解している市民の割合

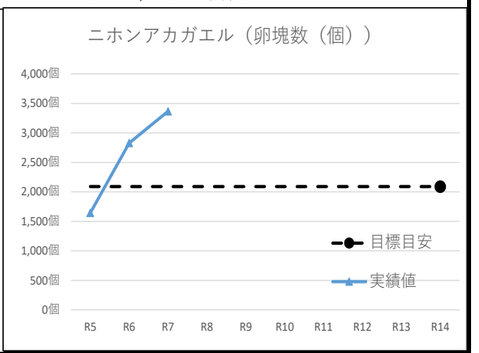


（７）谷津田の保全協定面積

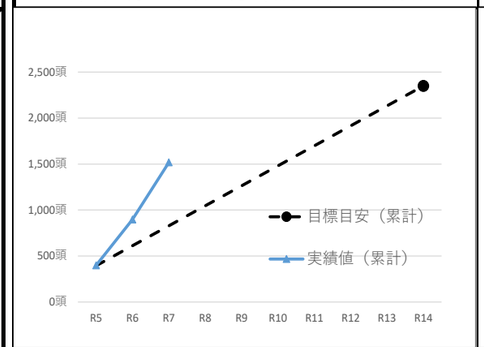


（８）貴重な生物（ﾍｲｹﾎﾞﾀﾙ・ﾆﾎﾝｱｶｶﾞｴﾙ）の生息数

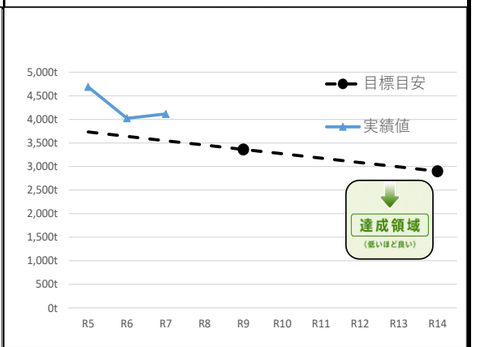




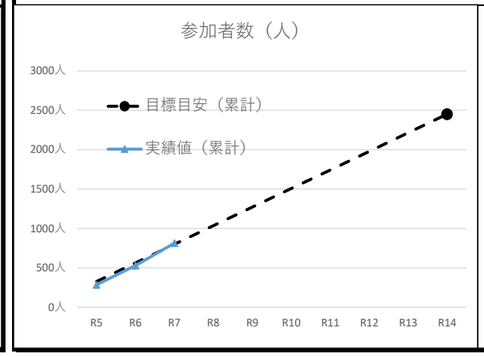
（９）特定外来生物（哺乳類）の防除数

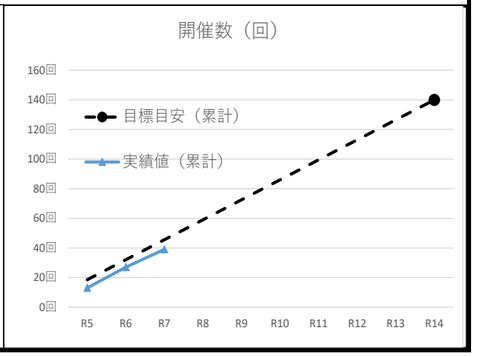


（10）家庭系食品ロス量



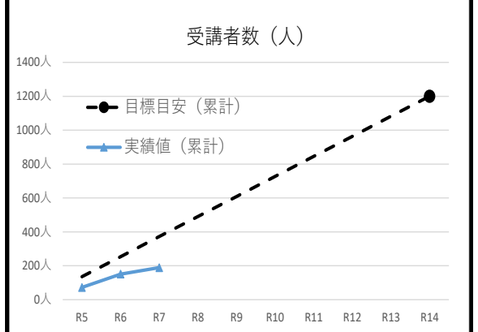
（11）【再掲】自然観察会などの参加者数・開催数



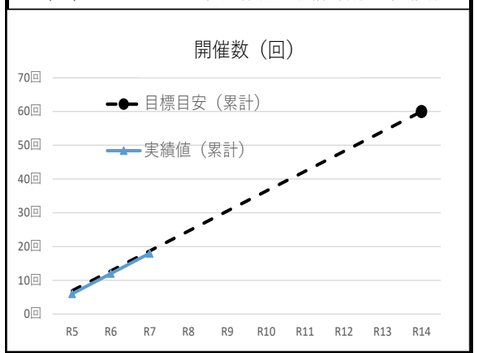


取組の柱３：計画の推進体制の整備

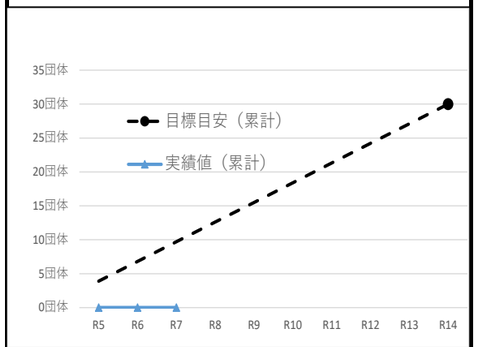
（12）ボランティア育成講座の受講者数・開催数



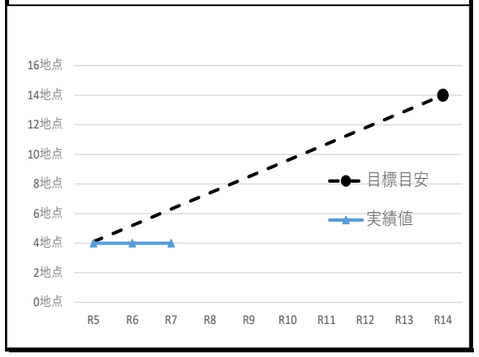
（12）ボランティア育成講座の受講者数・開催数



（13） 地域環境保全自主活動事業補助金の交付団体数



（14）貴重な生物（ﾍｲｹﾎﾞﾀﾙ・ﾆﾎﾝｱｶｶﾞｴﾙ）のモニタリング地点数



【グラフ説明】

・目標目安：計画最終年度の目標値に対する各年度の進捗状況を把握するための目安線。各年度で達成していることが望ましい目安として設定し、計画期間に応じた目標値の按分等により、指標の性質を踏まえて算出している。

・その他　：指標（10）は減少することが目的であるため、値が低いほど良い。